

【子どもたちが小さい時から、『子どもたちが小さい時から、『自分に厳しく、最後まで目一杯やるといふ強い信念を子どもに見せたい』という思いから、

現在Jリーガーとして活躍中の巻誠一郎氏の父上でいらっしゃる、巻昇治氏によつて「親は子どものサポーター」と題して行われた。

ご長女はハンドボール、ご次男はサッカー、奥様は水泳を、またご本人はプロ野球選手を目指した後、アイスホッケーに転向。まさにスポーツ一家である。そんな巻家の三人の子育てが如何なるものか、具体例を取り上げながら次の通り講演をして下さった。

自分が試合等で頑張っている姿を子どもたちに積極的に見せてきた。子どもたちにはたくさんのスポーツをさせてきたが、一貫して通してきたのは、『子どものいいところを見つけてしっかり褒めること』である。うちの長男は遅くにサッカーを始めたが、一生懸命親も応援したし、練習してきたからこそ今がある。

今回の基調講演は、現在Jリーガーとして活躍中の巻誠一郎氏の父上でいらっしゃる、巻昇治氏によつて「親は子どものサポーター」と題して行われた。

自分が試合等で頑張っている姿を子どもたちに積極的に見せてきた。子どもたちにはたくさん自分のスポーツをさせてきたが、一貫して通してきたのは、『子どものいいところを見つけてしっかり褒めること』である。うちの長男は遅くにサッカーを始めたが、一生懸命親も応援したし、練習してきたからこそ今がある。

基調講演

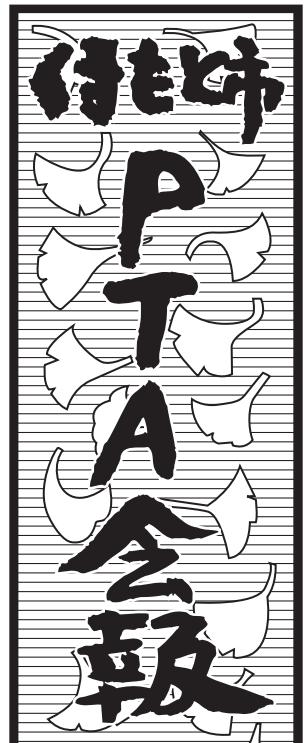
『親は子どものサポーター』

講師 巷 昇治氏



平成二十一年十一月二十八日、熊本保健科学大学において、今年も熊本市PTA研究大会が開催され、六〇二名の会員が参加した。

熊本市PTA研究大会開催



会議
和一
熊市PTA協
議
長者
編集責任者
行
熊本市草葉町5-1
TEL 356-1122
FAX 351-2309
メールアドレス
info@pta.kumamoto-net.ne.jp
印刷: 太陽社
TEL 366-1251



市PTA大会参加数	
東部A	83
東部B	132
西部	86
南部	106
北部A	123
北部B	66
植木	3
城南	3
計	602

現在、小川に『巻フットサルセンター』を開講中。来年四月には、熊本トサルセンターを開講します。熊本のサッカースクール育成のためにご尽力いただけるようだ。

(西山中 渡辺稔晃)

た。世間の各学校の校訓を見聞しても、よく吟味することもなく、「あゝ、知徳体のことだ」と勝手に解釈してきた。以前は生きる力という言葉は一般的に使われるることはなかつたと思う。

私が小学校に通つていたころ、夏はブームサイドで甲羅干しをし、冬は霜柱をざくざく踏んで登校した。やがて冷夏とか暖冬などの異常気象が人々の間でめずらしい体験として話題になり、最近では世界の各地で地球温暖化による気象災害で何万人の人々が亡くなつてゐる。地球温暖化だけではない。エネルギー問題、食料問題、水問題、人口爆発、情報化、経済問題



知徳体。
自分が卒業した学校の校訓は忘れてしまったが、要是知徳体だった気がしている。

生きたいという欲求は本能であり、使われていたとしたら「より良く生きよう」という意味の言葉ではなかつたか。少なくとも飢えや病気を乗り越えれば生きていくことができた。

生きようでは不十分なだけのことはない。子どもたちには時代に応じたバリジョンアップした知徳体すなわち「生きる力」が必要となつた。そしてその力をはぐくむためのより実効性のある教育が求められることになつた。

新学習指導要領にひきつがれた「生きる力」の理念。なんとなくとらえどころの無い言葉だが私はこのように理解した。

心都市と考えています。ところが、日本の地図では、ワシントン、ニューヨークは東の端、極東になります。そういうことから、カルチャーショックを受けるそうです。驚くことに、南半球のオーストラリアは、日本とは違つて、北へ行けば行くほど寒くなりますが、角もイメージも全くさまの地図です。様々な国を連想されますか? みなさんがイメージされる世界地図は、日本が中心であつて太平洋を挟んで日本とアメリカが向かい合つてある地図だと思います。ところが、ヨーロッパやアメリカの人達が日本の世界地図を見るとカルチャーショックを受けるそうです。というのは、アメリカ人はアメリカこそ世界でナンバーワンの大団だ、ワシントン、

本がジパングといわれていた時代、地図で見て東の端にあるので日本周辺のことを極東といいます。日本がジパングといわれて本がジパングといわれていた時代、地図で見て東の端にあるので日本周辺のことを極東といいます。日本周辺のことを見ると、地図を作る国のみなが世界地図をご覧になると、地図を作った人がどこで位置や見え方が違うということがお分かりになると思います。ところが、ヨーロッパやアメリカの人達が日本の世界地図を見るとき、親が見に行くことで、子どもがやりたいと願うことは精一杯応援して、たとえ子どもが試合に出られなくなても、サブとして頑張っている子どもたちを親が見に行くことで、子どもも頑張ろうという意欲が出る。頑張ると上達する→試合に出られるようになる→楽しくなる→また頑張れる、と繋がっていくものだ。

子どもの成長は、長いスパンで見ていくもので、常に子どもの目線で接してあげるべきである。子どもを楽しませながら育て、親もサポートを楽しんでやっていけば、将来生まれた時からずっと育てていくことがあります。みなさん、子どもが生まれた時からずっと育てていく努力を惜しまずにつづけてください。今日の研究大会がみなさんの話を聞くことを通じて視野を広げてください。本日の研究大会がみなさんの講師の方、パネラーの方の、話を聞くことを通じて、親が見に行くことで、子どもも頑張ろうとする意欲が出る。頑張ると上達する→試合に出られるようになる→楽しくなる→また頑張れる、と繋がっていくものだ。

親が子どもと毎日生活しているとお考えでしょ。しかし、親が子どもと毎日生活しているとお考えでしょ。しかしながら、親が子どもの姿を見るためには様々な角度から見ることが大切です。そのためには親が自分の考え方、自分の価値観だけに囚われずに、様々な角度から色々な見方を学んでいく必要があります。本日の研修会では、色々な講師の方、パネラーの方の、話を聞くことを通じて、親が見に行くことで、子どもも頑張ろうとする意欲が出る。頑張ると上達する→試合に出られるようになる→楽しくなる→また頑張れる、と繋がっていくものだ。

世界地図

市PTA研究大会 会長挨拶より
熊本市PTA協議会会長 森 德和

親が子どもの姿を見るためには親が自分の考え方、自分の価値観だけに囚われずに、様々な角度から見ることが大切です。そのためには親が自分の考え方、自分の価値観だけに囚われずに、様々な角度から見 paramString = "http://www.pta-kumamoto.net/info.html";

「食育を通じ家庭での教育力を考える」
講師 九州大学大学院助教授 比良松 道一氏

「食に感謝の気持ちをそんな思いから始まつたこの取り組みが、今、全国に広がりつつあるそうです。

最初に、講話の中では現在の大学生の食生活の実態や、日本の食料自給率の実情、そして、日本の子どもたちの、家族で食事をとる割合等を挙げられ、私達が思っている以上に低い割合という現実を聞かされた時には、参加されたみなさんは驚きの連続で、みんな関心深くスクリーンに見入りました。

また、子どもだけでお弁当を作つて学校に持つてくるという食育の取り組みが、家庭の在り方を考えることにも繋がつているという「お弁当の日」。子どもたちが自分一人でお弁当を作るという試みのお弁当の日では、子どもたちの生きる力を呼び



覚ます実践にもなること。実際に子どもたちが作ったお弁当の写真を、子どもたちの笑顔を交えたスライドで掲示しながら説明されました。最後に、食育というテーマを通してもう一度、家庭での食のあり方を考えさせられる講演でした。

(鈴木東小 峯好美)



「親・子の受容から初期療育、そして地域医療へ」
講師 熊本市子ども発達支援センター所長 大谷宣伸氏

子どもの発達障がいとは、自閉症や広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等をいい、脳の働き方が他の人と異なることにより生じる。

誤解や偏見にさらされやすく、適切なサポートを受けずに成長すると自尊心が育たず、不登校・引きこもり・非社会的な行動をとるなど二次障害を生じることが少なくない。子どもの発達特性にあわせて教えたり環境を整えることによって、子どもたちが子どもの行動を正しく理解し、正しく対応できるためには、早期発見・早期診断・専門家のアドバイス)

「第二分科会」於 熊本保健科学大学アリーナ



第三分科会は「心をひらくあいさつ運動」をテーマに、熊本市立富合小学校発表、あいさつ運動に関する事前アンケートの結果報告、その後ディスカッションが行われた。三隅陽司校長の実践発表、あいさつ運動に関する事前アンケートの結果報告、その後ディスカッションが行われた。

富合小学校のあいさつ運動は五月と十一月に行われている。該当月は毎日行われており、日ごとの担当は学級単位で交代で持ちまわっている。

教員、担当学級や有志の保護者、地域の方、児童らが参加している。参加者の多い運動である。

あいさつ運動をきっかけに、あいさつが身につく重要な鍵となる。

子ども達が、その特性を理解され不安の無い環境の中で、豊かに暮らせる社会であつてほしいです。



あいさつを家庭から地域、そして社会へと広げていくことを目的に運動を展開している。その後、ディスカッションでは富合小学校のあいさつ運動に関する質問やアンケート結果を踏まえての、各校の現状を展開している。

日本人的な軽い運動をとるなど二次障害を生じることが少なくない。子どもの発達特性にあわせて教えたり環境を整えることによって、子どもたちが子どもの行動を正しく理解し、正しく対応できるためには、早期発見・早期診断・専門家のアドバイス)

日本人の軽い運動をとるなど二次障害を生じることが少なくない。子どもの発達特性にあわせて教えたり環境を整えることによって、子どもたちが子どもの行動を正しく理解し、正しく対応できるためには、早期発見・早期診断・専門家のアドバイス)

（桜木東小 前田桂子）

「日本人の軽い運動をとるなど二次障害を生じることが少なくない。子どもの発達特性にあわせて教えたり環境を整えることによって、子どもたちが子どもの行動を正しく理解し、正しく対応できるためには、早期発見・早期診断・専門家のアドバイス）

（桜木小 緒方秀二）

平成二十二年一月三十日（土）東部市民センターにおいて開催されました。

『日本人の軽い運動』をテーマに取り上げ、講師は企業家であり、シティーナリティーを楽しむ鳥居正純氏。戦前・戦中・戦直後、そして戦後時代の教育を受け「世のため、人のため、ちょっとだけ自分のため」をモットーに現代に伝承する役目を自負する鳥居氏の「あるべき日本人の姿と品格、さらしさとは」と題された講演には東部A地区内各学校から118名の参加がありました。

「軽い運動をとるなど二次障害を生じることが少なくない。子どもの発達特性にあわせて教えたり環境を整えることによって、子どもたちが子どもの行動を正しく理解し、正しく対応できるためには、早期発見・早期診断・専門家のアドバイス）

や問題点の報告なども活に行われました。富合小学校の校長先生はもちろん、教頭先生、PTA会長も発言されましたが、その様子からもコミュニケーションの良さが見て取れた。

（出水南小学校 田中正代）

あいさつ運動に限らず学校行事や役員会なども和やかに行われているそで、そこに至る環境や雰囲気作りへの配慮も重要な点だと感じた。

（出水南小学校 田中正代）

ブロック研修会



日本人の軽い運動

講



研修会一覧

地区	テーマ形式
東部 A 1月30日	日本人の謙 ～あるべき日本人の姿と品格、らしさとは～
東部 B 7月12日	子どもと関わり続けること
西部 10月17日	子どもと向き合う
南部 10月17日	第一分科会「伝えていきますかあなたの気持ち」 第二分科会「南部地区における青少年犯罪の現状」 第三分科会「小中一貫教育を支える活気あるPTA活動へ」
北部 A 1月30日	感動をありがとう ～ベルギーで学んだこと～
北部 B 1月23日	地域全体での支援へ

東部 B 東部 B 地区では昨年度に引き続き、「発達障がいを持つ子どもたちとの関わり方」、「パート2」と題してパネルディスカッションを開催しました。



パネラーは熊本大学教育学部障害児教育学科の准教授である肥後祥治先生、東町小学校教頭の城戸千代先生、そして NPO法人さくらの会の矢野美枝さん。

肥後先生はスライドを用いて、子どもたちの行動には理由があり、理解が進むよむたり、トランプも回避できる

日時…平成21年7月12日(日)
場所…熊本県立大学

子どもと関わり続けること



城戸先生は学校で接している子どもたちのことや、現場の取り組みとして子どもたちそれぞれに合った方法

での気づきの大しさを。

また保護者支援を行って

いる矢野さんからは、子

どもを社会で生活できる

ようにしていくための親

としての関わり方につい

て話があり、会場には真

摯な面持ちで傾聴する参

加者の姿が見られました。

参加者からは時間をオ

バード質問が挙げられ、

コーディネーターの山形

会長(月出小PTA)が

社会的な支援の必要性も

踏まえてまとめられまし

た。錦ヶ丘中PTAの山

本会長は「忙しさにまぎ

れて子どもと接していな

い部分も多い。子どもと

一緒に活動することで、

子どもたちの成長が見ら

れる」と述べました。

肥後先生は「発達障が

いを持つ子どもたちとの

関わり方」、「パート2」と

題してパネルディスカッ

ションを開催しました。

このことなど

を解説。

また特別

支援教育

コーディ

ネーター

である

東部 B 地区18校180

人の参加者の心に届き、

特別支援教育への理解が

深まった研修会となっ

たのでしようか。

(高平台小学校 堀 史)

事にしたい」と謝

辞を述べられました。

東部 B 地区の参加者の心に届き、

特別支援教育への理解が

深まつた研修会となっ

たのでしようか。

（高平台小学校 堀 史）



平成二十二年十月十七日、西部公民館で開催されました。環境教育アドバイザーの小林修さんを講師に迎え、「環境自然派！」癒しの玉手箱」（子どもたちに私たちができるこ

南 部

西部地区研修会は平成二十二年十月十七日、西部公民館で開催されました。環境教育アドバイザーの小林修さんを講師に迎え、「環境自然派！」癒しの玉手箱」（子どもたちに私たちができるこ

西 部

子どもと向き合う



（城西小 山本伸裕）

平成二十二年十月十七日、力合小学校に於いて、南部地区的研修会が開催されました。各校の校長・教頭先生を含む三百余名の PTA が参加し、各分科会は、熱心に傾聴する姿が見られました。第一分科会は、「伝えていきますかあなたの気持ち」、第二分科会は、「南部地区における青少年犯罪の現状」、第三分科会は、「小中一貫教育を支える活動」、というテーマで、各講師の先生から現状と課題について、講義がありました。その中でも、最近は犯罪が低年齢化しており、小中学生の犯罪が増加している原因として、携帯電話の普及がトップに挙げられておりま

した。

近年、情報化社会の

変化する役割があること、

足が臭う人は十円玉を靴の中に入れればよいこと、

鼻が悪い人はどくだみの葉を鼻につめる等々。次

から次に紹介される生活の知恵と、自然の恵みに感謝して生活する心得の

お話をぐいぐいと引き込まれ、大変充実した研修会となりました。

夜の交流会では新町獅子保存会の皆さんのが舞も

披露されました。

（城西小 山本伸裕）



京陵中学校は、熊本市北部に位置する創立六十三年の学校です。生徒数は七七四名、朝は清掃活動から始め、学業にスポーツに生徒、教師全員で日々頑張っております。本校の自慢は、学校独自のスローガンを大切にしていることです。「自掃」・「自学」がそれです。「自挨」は自ら進み重ねてきた素晴らしい伝統の賜物です。そして、「自学」は自ら学ぶこと。何事にもチャレンジ精神

二学期からは、三年生共通テスト、二年生のナイストライ・修学旅行、各学年の合唱コンクール、定期テストなど行事が目白押しです。今後とも地域の方、PTAの支援を作るため全員で頑張っていきたいと思います。
(京陵中 城間佳子)

熊本市の中心に近い熊童数80人という少人数ですが、「いのち・言葉・心」を大事にする楽しい学校です。子どもたちの生き生きとした俳句や標語等があちらこちらに飾ってあります。昇降口では、校門の桜で作った全児童の(見えて)出迎えます。また、今秋、本荘小学校教育目標を盛りこんだ

少人数でも地域とともに、 仲よく楽しく、 言葉はあいえお



幸いなことに、この地域の文化を継承するため、毎年、新春に校庭の真ん中で、地域主催のどんどやが行われます。本荘小太鼓部の演奏で始まり、やぐらに点火します。空手の演舞、肥後ちよ芸を披露されたり、長い竹ざおの先にくくりつけたお餅を焼いたり、保護者の作ったせんざいを食べながら、みんなで、休日を楽しみます。

また、今秋、本荘小学校教育目標を盛りこんだ

【本荘小学校】

会長の宮津謙一様のご挨拶の中、「何も無い原っぱの中にボツンと校舎だけが建っていました」という歴史の背景、子ども達の様子と長期に渡って見つけが建っていました。

毎年運動会で行う、男子の「エックスササ」と「女子のソーラン節」があります。特にソーラン節は演技で着用する法被(はっぴ)を保護者、先生方で作成しています。材料は地域及び遠くは天草から寄贈していただいた矢

幸いかと思いました。記念演奏会では、熊本を拠点として活躍されている「Viento」さんをお招きしました。色々な楽器を使用しての演奏では、子ども達も静かに聞き入っていました。しかし、その中でも私が感銘を受けたのは、演奏の合間に語



この貴重な体験は、きっと子ども達の心に残った事でしょう。学ぶ事の大切さ、人と人との関わりの素晴らしさ等、これから更に成長していく子ども達に、心豊かで、人に優しい大人になつて行ってほしいと願つてやみません。

この貴重な体験は、きっと子ども達の心に残った事でしょう。

この貴重な体験は、